

### 【今日の説教から】

「子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、御名のゆえに、あなたがたの多くの罪がゆるされたからである。

父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、悪しき者にうち勝ったからである」と、先週の個所ではこのように高らかに語られました。

そのようにして高らかに宣言される清き勝利の交わりを裂く出来事が起こりました。それが反キリストです。

これは終わりの日の出来事であり、「わたしたち」と深くたもとを分かち出来事でした。彼らはすべて不真実であり、嘘であり、非現実であり、まやかしと偽造に満ちています。その中に真実はありません。

どうしてそのような一派が「わたしたち」の中から生まれるのか。真理から迷い出て、帰ってこようとしないのか。「わたしたち」との言葉が4回も繰り返されています。そのあまりの頑固さと不真実さには、最初から共にいるものではなかったと結論付ける外はありませんでした。

最後のな、どうしても取り返しのつかない出来事。キリストと父なる神を否定して、否定して、否定する反キリストの姿に、悲しみが広がります。しかしあなたは油注がれ、聖霊に満たされ、真理を知っている。知っている、知っている、3回にわたって「知っている」という言葉が繰り返されます。父、御子、御霊のお守りに唯感謝します。

先週の個所には、高らかに次のように語られていました。

2:12 子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、御名のゆえに、あなたがたの多くの罪がゆるされたからである。

2:13 父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、悪しき者にうち勝ったからである。

知恵浅き、力無き子たちが喜び、世の中で疲れ果てた、あらゆる物事に打ちのめされた父たちが、新たに主を見上げ、若者のように新たな力を得て勝利する、高らかな宣言です。

そのようにして罪のための贖いの供え物、イエス・キリストによって主の交わりである教会が始まりました。

しかし今は終わりの時。尊い、「わたしたちの」主のお交わりの中から反キリストが出てきてしまうのです。いよいよ時極まり、終わりの時、これ以上の時の猶予が残されぬ、時極ま

った終わりの時、末期的な状況の出現です。

その反キリスト、しかも多くの反キリストの出現はかつてから言われていました。イエス様はこう語られました。

マタイ 24:4 そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。

24:5 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。

24:6 また、戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけません。それは起らねばならないが、まだ終りではない。

24:7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。

24:8 しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。

24:9 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。

24:10 そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。

24:11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。

24:12 また不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えるであろう。

24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

24:14 そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。

1 ヨハネ 2:18 子供たちよ。今は終りの時である。あなたがたがかねて反キリストが来ると聞いていたように、今や多くの反キリストが現れてきた。それによって今が終りの時であることを知る。

そして多くの反キリストが現れてきました。終わりの時だからです。ヨハネがこの手紙を書いた時、大方2000年前ですが、この時にもすでにたくさん偽キリストがいました。しかしその時がすでに終わりの時であるのなら、どうしてそれから2000年物時が過ぎたのでしょうか。終わりの時、最後の時と言っても、それが長々と2000年も続いたら、終わりの時という緊張感は感じられないのではないのでしょうか。

終わりの時。それは終わりのタイミングという意味ではなくて、最後の、どうにもこうにもならない、取り返しのつかないどん詰まりの状態、瀕死の状態という意味なのではないのでしょうか。そこが終わりあと数日のタイミングだから、すぐに終わりが来るというのではなくて、いつ終わりを迎えてもいいくらいの瀕死の、最悪の状態がずっと2000年も続いているということなのではないのでしょうか。

いつ破滅が訪れてもおかしくない、そういう最後の状況。それが奇跡的にも、主のご忍耐の

ゆえに2000年も続いているのです。

2 ペテロ 3:7 しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである。

3:8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。

3:9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

3:10 しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。

3:11 このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、

3:12 極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。

3:13 しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。

3:14 愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。

1 ヨハネ 2:19 彼らはわたしたちから出て行った。しかし、彼らはわたしたちに属する者ではなかったのである。もし属する者であったなら、わたしたちと一緒にとどまっていたであろう。しかし、出て行ったのは、元来、彼らがみなわたしたちに属さない者であることが、明らかにされるためである。

この19節には、「わたしたちから」という言葉が実に4回も繰り返されています。

それほどに、「わたくしたち」という交わりは素晴らしいものであったのです。打ち破られることも、切り裂かれることもない、素晴らしい主の贖いにある交わりでした。

1:7 しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。

1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめ、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さったのです。

この神の御子による贖いによる御恩と感謝は、出エジプトの主なる神様のお働きを子々孫々に伝えるイスラエルの恩に比べようもないほどに大きいはずでした。しかし人々は「わたしたちから」離れて行きました。

そのあまりにも頑固で、思いを改めようとしなない姿勢には、最初から私たちの内にいなかった者だからと結論付ける外はないほどのものでした。「わたしたち」の交わりの終焉。「彼らはわたしたちから出て行った」という出来事。ここには深い悲しみがありました。

キリストに属するものではなくなってしまった。反キリストになってしまった。全てのものを得ていたのに、それらを見失ってしまった。

ローマ 8:31 それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。

8:32 ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあるのか。

2:20 しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。

2:21 わたしが書きおくれたのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。

20節、21節には3回「知っている」と繰り返されます。私たちは聖霊により、真理を知っています。

これに対比する言葉は、偽りです。嘘、不真実、現実でないもの、イミテーション(模造・虚構:imitation)です。それがどんなにか素晴らしいイメージを醸し出したとしても、それは空虚なものです。それには頼ることが出来ません。それはただのイメージであり、虚像だからです。そういうものに人生を奪い取られ、頼みにもならないものに目を奪われるのならば、私たちはなんと虚しいのでしょうか。しかし私たちは真理を知る者です。そしてすべての偽りは真理から出るものではありません。真理とは無関係なのです。

2:22 偽り者とは、だれであるか。イエスのキリストであることを否定する者ではないか。

父と御子とを否定する者は、反キリストである。

2:23 御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。

イエスがキリストであることを肯定してこそその真理です。それを否定するものは偽り者です。嘘つきであり、非現実のまがい物を信奉する人たちです。どうして「私たちのうちから」そのような反キリストが出るのでしょうか。イエスのキリストであることを否定して、父と御子とを否定して、御子を否定するのでしょうか。3度にわたって「否定する」という言葉が記されています。これは決別するとか、拒絶するという意味をも持っています。

御子を否定して拒絶する者はまた父なる神様を拒絶し、御子を告白する者はまた、父を持ち、父なる神様に結ばれています。

私たちを、真理と偽りに生き方を分けるものが、聖霊です。「聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている」とあるように、

1 コリント 12:3 そこで、あなたがたに言うが、神の霊によって語る者はだれも「イエスはのろわれよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。

2:24 初めから聞いたことが、あなたがたのうちに、とどまるようにしなさい。初めから聞いたことが、あなたがたのうちにとどまっておれば、あなたがたも御子と父とのうちに、とどまることになる。

2:25 これが、彼自らわたしたちに約束された約束であって、すなわち、永遠のいのちである。2:26 わたしは、あなたがたを惑わす者たちについて、これらのことを書きおくれた。2:27 あなたがたのうちに、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない。この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい。

2:28 そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、彼が現れる時に、確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じることがないためである。

2:29 彼の義なるかたであることがわかれば、義を行う者はみな彼から生れたものであることを、知るであろう。

イエス様のうちにとどまることを願いましょう。聖書に書き記されている、2000年前にこ

の地上にお生まれになられたイエス様の出来事、そのお言葉と行いを胸に刻んで、そのイエス様に倣う(イミテート:imitate)生き方をしたいのです。それに気づかせ、その真理を教え、キリスト・イエスを慕わせ、イエス様に似せて成長させられるのは、私たちの中に生きておられる聖霊なのです。この聖霊によりていき、イエス様を目標とする者こそ、真理から生まれた者であり、真理を行う者です。

エペソ 4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちを真理の内に守り、聖霊の注ぎの中であって迷い出ることのないようにお守りくださいまして、本当にありがとうございます。取り返しのつかない終わりの時に向かって時は進み、真理から目を逸らそうと悪は企て、嘘と不真実をもって私たちをだまそうと近づいてきますが、どうか私たちが聖霊により、いつも真理のうちにとどまり、真実を悟ることが出来ますように、今週もお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン